

特別養護老人ホーム百恵の郷(短期入所生活介護) 運営規程

(事業の目的及び基本方針)

- 第1条 この規程は、社会福祉法人湖聖会が設置運営する特別養護老人ホーム百恵の郷短期入所生活介護（以下「事業所」という。）が行う指定短期入所生活介護事業（以下「事業」という。）の運営及び利用について必要な事項を定め、事業の円滑な運営を図ることを目的とする。
- 2 事業所は利用者に対し、健全な環境の下で、社会福祉事業に関する熱意と能力を有する職員による適切な処遇が行われるようにする。
 - 3 事業所は、短期入所生活介護計画に基づき、可能な限り、在宅における生活の維持を念頭において、入浴、排泄、食事の介護、相談及び助言、社会生活上の便宜の供与その他の日常生活上の世話、機能訓練、健康管理及び療養上の介護を行うことにより、利用者がその有する能力に応じた自立した日常生活を営むことができるようにすることを目指す。
 - 4 事業所は、利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立って指定短期入所生活介護サービス（以下「短期入所サービス」という。）の提供に努める。
 - 5 事業所は、明るく家庭的な雰囲気を有し、地域や家庭との結びつきを重視した運営を行い、市町村等保険者（以下「保険者」という。）、居宅介護支援事業者、居宅サービス事業者、他の介護保険施設その他保健医療サービス又は福祉サービスを提供する事業者等との密接な連携に努める。

(事業所の名称等)

- 第2条 事業所の名称及び所在地は次のとおりとする。

名 称 特別養護老人ホーム百恵の郷 短期入所生活介護
所在地 静岡県富士宮市大鹿窪1 4 3 番地 1

(利用定員)

- 第3条 事業所の利用定員は次のとおりとする。但し、諸法令に基づく緊急性のある利用及び災害時等においては、定員を超えて利用者を受け入れる場合があるものとする。
- 一 併設型 多床室6名 従来型個室 8名
 - 二 空床利用可型 併設の介護老人福祉施設の定員以内
- 2 空床利用型については、併設の介護老人福祉施設の入居者が入院等の理由により空床がある場合のみ利用できる。

(職員の種類、員数、及び職務内容)

- 第4条 事業所に勤務する管理者及び職員等の職種、員数及び職務内容は次のとおりとする。

- (1) 施設長（管理者） 1名
施設長（管理者）は、事業所の職員の管理、及び業務の管理を一元的に行う。
- (2) 医 師 1名
医師は、利用者の診療及び保健衛生の管理指導の業務に従事する。
- (3) 生活相談員 1名以上
生活相談員は、利用者及びその家族に対し相談援助業務を行う。

- (4) 介護職員 14名以上
介護職員は、日常生活上の介護業務に従事する。
 - (5) 看護職員 3名以上
看護職員は、看護、保健衛生の業務に従事する。
 - (6) 管理栄養士 1名以上
管理栄養士は、給食管理、利用者の栄養指導・栄養管理に従事する。
 - (7) 機能訓練指導員 1名以上
機能訓練指導員は、利用者の機能回復、機能維持に必要な訓練及び指導に従事する。
 - (8) 事務員 3名
事務員は事業所の庶務及び会計事務に従事する。
 - (9) 調理員 3名以上
調理員は、利用者の身体の状態及び嗜好を考慮して給食業務に従事する。
- 2 前項に定めるものの他、必要がある場合は、職員を増員することができる。
 - 3 前項に定める職員は、併設の特別養護老人ホーム百恵の郷（介護老人福祉施設）の職員を兼務するものとする。

（会議）

第5条 施設の円滑な運営を図るため、次の会議を設置する。

- (1) 運営会議
- (2) 職員会議
- (3) サービス担当者的会議
- (4) 給食会議
- (5) その他適宜必要とされる会議

2 会議の運営に必要な事項は、管理者が別に定める。

（内容及び手順の説明及び同意）

第6条 事業所は、短期入所サービスの提供の開始に際しては、あらかじめ、利用申込者又はその家族に対し、運営規程の概要、従事者の勤務体制、その他の利用申込者のサービス選択に資すると認められる事項の説明を行い、当該サービス提供の開始について利用申込者の同意を得たうえで契約する。

（サービスの利用開始、終了）

第7条 事業所は、身体上又は精神上著しい障害があるために常時介護を必要とし、かつ居宅において一時的にこれを受けることが困難な方に対し、短期入所サービスを提供する。

- 2 事業所は、正当な理由なく短期入所サービスの提供を拒まない。
- 3 事業所は、利用申込者が入院治療を必要とする場合その他利用申込者に対し自ら適切な便宜を提供することが困難である場合は、適切な病院若しくは診療所又は介護老人保健施設等を紹介し適切な措置を速やかに講じるものとする。
- 4 事業所は、利用申込者の利用に際しては、利用者の心身の状況、病歴等の把握に努める。

(利用料等の受領)

第8条 事業所は、法定代理受領サービスに該当する短期入所サービスを提供した際には、利用者から利用料の一部として、当該短期入所サービスについて厚生労働大臣が定める基準により算定した費用の額から当該事業所に支払われる短期入所生活介護サービス費の額を控除して得た額の支払いを受ける。

2 事業所は、法定代理受領サービスに該当しない短期入所サービスを提供した際に利用者から支払いを受ける利用料の額と、指定短期入所生活介護に係る居宅介護サービス費用基準額との間に、不合理な差額が生じないように利用料の額を設定する。

3 事業所は前2項の支払いを受ける額のほか、次に掲げるサービスについて重要事項説明書に記載のとおり支払いを受ける。

(1) 食事の提供に要する費用

(2) 滞在に要する費用

但し、介護保険負担限度額認定証の発行を受けている方については、その認定証に記載された滞在費の金額の負担とする

(3) 特別な食事の提供に要する費用

(4) レクリエーション・クラブ活動に要する費用

(5) 通常の事業の実施地域以外の交通費

(6) その他、利用者に負担させることが社会通念上適当と認められるもの

4 事業所は、前項各号に掲げる費用の額に係るサービスの提供に当たっては、あらかじめ利用者又は家族に対し、当該サービス内容及び費用について説明を行い、利用者又は家族の同意を得るものとする。

(通常の送迎の実施地域)

第9条 通常の送迎の実施区域は富士宮市・山梨県南部町万沢地区・山梨県南部町十島地区とする。

(営業日及び営業時間)

第10条 事業所の営業日及び営業時間は、次のとおりとする。

(1) 営業日 原則として年中無休とする

(2) 営業時間 原則として8時30分から午後5時30分(窓口対応時間)

(短期入所生活介護計画の作成)

第11条 管理者は、概ね4日以上にわたり継続して入所することが予定される利用者については、サービスの目標、当該目標を達成するための具体的なサービスの内容等を記載した短期入所生活介護計画を作成するものとする。

2 生活相談員は、利用者の心身の状況、希望及びその置かれている環境を踏まえて、短期入所サービスの提供の開始前から終了後に至るまでの利用者が利用するサービスの継続性に配慮して、短期入所生活介護計画の素案のとりまとめを行う。

3 短期入所生活介護計画は、既に居宅サービス計画等が作成されている場合は、当該計画の内容に沿って作成するものとする。

4 管理者は、短期入所生活介護計画の作成に当たっては、その内容について利用者又はその家

族に対して説明し、利用者の同意を得るものとする。

- 5 管理者は、短期入所生活介護計画を作成した際には、当該短期入所生活介護計画を利用者に交付するものとする。

(利用者の処遇方針)

第12条 事業所は、利用者の要介護状態の軽減又は悪化の防止に資するよう、心身の状況に応じて、適切な処遇に努める。

- 2 短期入所サービスの提供は、短期入所生活介護計画に基づき、漫然かつ画一的なものとならないよう配慮して行う。
- 3 事業所の従事者は、短期入所サービスの提供にあたっては、懇切丁寧を旨とし、利用者又はその家族に対し、処遇上必要な事項について、理解しやすいように説明を行う。
- 4 事業所は、短期入所サービスの提供にあたっては、当該利用者及び他の利用者等の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、身体拘束その他利用者の行動を制限する行為は行わない。
- 5 事業所は、虐待の発生またはその再発を防止する為、委員会の設置、指針の整備、研修及び担当者の設置等必要な措置を講じる。
- 6 事業所は、前項の身体的拘束等を行う場合、その態様や時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由を記録する。
- 7 事業所は、自らその提供するサービスの質の評価を行い、常にその改善を図る。
- 8 事業者は、利用者のプライバシーの確保に配慮する。

(介護)

第13条 介護は、利用者の自立の支援及び日常生活の充実に資するよう、利用者の心身の状況に応じて、適切な技術を持って行う。

- 2 事業所は、1週間に2回以上、適切な方法により、利用者の入浴援助、又は清拭を行う。
- 3 事業所は、利用者に対し、その心身の状況に応じて、適切な方法により、排泄の自立について必要な援助を行う。
- 4 事業所は、オムツを使用せざるを得ない利用者については排泄の自立を図りつつ、オムツを適切に随時取り替える。
- 5 事業所は、利用者に対し、前各項に規定するもののほか、離床、着替え、整容等の介護を適切に行う。
- 6 事業所は、利用者の負担により、当該施設の職員以外の者による介護を受けさせない。
- 7 事業所は、利用者の日常生活における家事を、利用者が、その心身の状況等に応じて、それぞれの役割をもって行うように適切に支援する。

(食事の提供)

第14条 利用者の食事は、栄養並びに利用者の身体の状態及び嗜好を考慮して、適温に配慮し、適切な時間に提供する。食事時間は概ね次のとおりとする。

- (1) 朝食 午前7時～
- (2) 昼食 午前11時30分～

(3) 夕食 午後5時30分～

- 2 食事の提供は、利用者の自立の支援に配慮して、可能な限り離床して行うように努める。
- 3 事業所は、利用者の心身の状況等に応じ適切な方法で食事の自立について必要な支援を行う。

(相談及び援助)

第15条 事業所は、常に利用者の心身の状況、その置かれている環境等の的確な把握に努め、利用者又はその家族に対し、その相談に適切に応じるとともに、必要な助言その他の援助を行う。

(社会生活上の便宜提供等)

第16条 事業所は教養娯楽設備等を整えるほか、適宜利用者のためのレクリエーション行事を行う。

- 2 事業所は、常に利用者の家族との連携を図るとともに、利用者とその家族との交流等の機会を確保する。

(機能訓練)

第17条 事業所は、利用者に対し、短期入所生活介護計画に基づいてその心身の状況等に応じて、日常生活を営むのに必要な機能を回復し、又はその減退を防止するための訓練を行う。

(健康管理)

第18条 事業所の医師又は看護職員は、常に利用者の健康の状況に注意し、必要に応じて健康保持のための適切な措置をとる。

- 2 事業所の医師は、その行った健康管理に関し、利用者の健康手帳に必要な事項を記載する。健康手帳を有しない利用者についてはこの限りではない。

(送迎サービス)

第19条 事業所は、利用者の心身の状態、家族等の事業等からみて送迎を行うことが必要と認められる利用者に対して、送迎を行う。

(入浴サービス)

第20条 事業所は、居宅における入浴が困難な利用者へ入浴サービスを行う。

(サービス利用に当たっての留意事項)

第21条 利用者は、短期入所サービスの提供を受ける際には、次に掲げる事項に留意しなければならない。

- (1) 利用者が当事業所従業者や、他の利用者に対し、迷惑を及ぼすような活動を行う事を禁じる。
- (2) 居室及び共用施設、敷地はその本来の用途に従って利用すること。

(3)利用者は火気の取扱に注意しなければならない。

(4)利用者の故意または過失により事業所に損害を与えた場合、事業所は損害賠償を請求することができる。

(非常災害対策)

第22条 事業所は非常災害に備え、消防法に準拠して防災計画を別に定め、避難、救出、その他必要な訓練を年2回以上実施し、地域住民の参加が得られるよう連携に努める。

2 事業所は、非常災害時における対応のため、防火管理者を置く。

3 非常災害に際する具体的計画は、消防のみならず、風水害・地震等の災害にも対処できるよう策定する。

(緊急時等の対応)

第23条 事業所は、現に短期入所生活介護サービスの提供を行っているときに利用者の身体に急変が生じた場合は、速やかに協力病院への連絡を行うとともに利用者の家族又は身元引受人等に連絡し必要な措置を講じる。

(事故発生時の対応)

第24条 利用者に対する短期入所サービス提供により事故が発生した場合は速やかに利用者の家族又は保険者等に連絡を行うとともに必要な措置を講じる。

2 利用者に対する短期入所サービスの提供により事業所の責に帰すべき事由で賠償すべき事故が発生した場合は損害賠償を速やかに行う。

(勤務体制の確保等)

第25条 事業所は、利用者に適切な短期入所サービスを提供できるよう、職員の勤務体制を定める。

2 事業所は施設の職員によって短期入所サービスを提供する。ただし、利用者の処遇に影響を及ぼさない業務についてはこの限りではない。

3 事業所は利用者が安心して日常生活を送ることができるよう、継続性を重視した短期入所サービスの提供に配慮する。

4 事業所は職員に対し、その資質向上のための研修機会を確保する。

(定員の厳守)

第26条 事業所は、利用定員及び居室の定員を超えて運営しない。ただし、諸法令に基づく緊急性のある利用及び災害その他やむを得ない事情がある場合は、この限りでない。

(衛生管理等)

第27条 事業所は、利用者の使用する食器その他の設備又は飲用に供する水について、衛生的な管理に努め、又は衛生上必要な措置を講じるとともに、医薬品及び医療器具の管理を適正に行う。

- 2 事業所は、施設において感染症が発生し、又は、まん延しないように、委員会の設置、指針の整備、研修及び訓練の実施等必要な措置を講ずる。

(協力病院)

第28条 事業所は、入院治療を必要とする利用者のために、協力病院、協力歯科医療機関を定める。

協力医療機関 池田クリニック

富士宮市下条148-1 Tel 0544-58-5558

湖山リハビリテーション病院

富士市大淵405-25 Tel 0545-36-2000

協力歯科医療機関 村野歯科医院

富士宮市長貫1131-5 Tel 0544-65-0067

長谷川歯科クリニック

富士宮市内房3195-1 Tel 0544-65-1800

(重要事項の揭示)

第29条 事業所は、見やすい場所に、運営規程の概要、職員の勤務体制、協力病院、利用料その他のサービスの選択に資すると認められる重要事項を掲示する。

(秘密保持等)

第30条 事業所の職員及び職員であった者は、正当な理由がなく、その業務上知り得た利用者又はその家族の秘密を漏らしてはならない。又、秘密を漏らすことがないよう必要な措置を講じる。

- 2 事業所は、居宅介護支援事業者等に対して、利用者に関する情報を提供する際にはあらかじめ利用者又は家族の同意を得る。

(苦情処理)

第31条 事業所は、その提供した施設サービスに関する利用者からの苦情に迅速かつ適正に対応するために、苦情を受け付けるための窓口を設置する。

- 2 事業所は、その提供した施設サービスに関し、保険者が行う文書その他の物件の提出若しくは提示、又は保険者の職員からの質問及び照会に応じ利用者からの苦情に関して、保険者が行う調査に協力するとともに、保険者から指導又は助言を受けた場合は、当該指導又は助言に従って必要な改善を行う。
- 3 事業所は、その提供した施設サービスに関する国民健康保険団体連合会が行う調査に協力するとともに、国民健康保険団体連合会からの指導又は助言を受けた場合は、当該指導又は助言に従って必要な改善を行う。
- 4 事業所は苦情を受け付けた場合には、当該苦情の内容等を記録する。
- 5 事業所は苦情解決のために理事会の選考を経て第三者委員を任命する。
- 6 事業所は利用者からの苦情解決の取り組みに関する実施要綱を定める。

(地域等との連携)

第32条 事業所の運営に当たっては、地域住民又はその自発的な活動等との連携及び協力を行う等地域との交流に努める。

- 2 事業所は、その運営に当たっては、その提供した短期入所サービスに関する利用者からの苦情に関して、市町村等が派遣する者が相談及び援助を行う事業その他の市町村が実施する事業に協力するように努める。

(記録の整備)

第33条 事業所は、職員、事業所及び会計に関する諸記録を整備する。

- 2 事業所は、利用者に対する短期入所サービスの提供に関する以下の記録を整備し、その実施の日から2年間保存する。
 - (1) 利用者の処遇に関する計画
 - (2) 行った具体的な処遇内容の等の記録
 - (3) 身体的拘束等の態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由の記録
 - (4) 苦情の内容等の記録
 - (5) 事故の状況及び事故に際して採った処置についての記録

(法令との関係)

第34条 この規程に定めのない事項については、介護保険法等関係法令並びに介護保険法の定めるところによる。また、この規程に定める事項の外、運営に関する重要事項は社会福祉法人湖聖会と事業所の管理者との協議に基づいて定めるものとする。

(その他運営に関する重要事項)

第35条 事業所は、介護に当たる従業者の資質の向上のために、次のとおり研修の機会を設けるものとする。

- (1) 採用時研修 採用後3か月以内
 - (2) 継続研修 随時
 - (3) 介護に直接携わる職員のうち、医療・福祉関係の資格を有さない者について、認知症基礎研修を受講するために必要な措置を講じる
- 2 従業者は、正当な理由がなく、その業務上知り得た入居者又はその家族の秘密を漏らしてはならない。
 - 3 従業者であった者が、正当な理由がなく、その業務上知り得た利用者又はその家族の秘密をもらすことがないよう、従業者でなくなった後においてもこれらの者の秘密を保持すべき旨に従業者との雇用契約の内容とするものとする。

(虐待防止に関する事項)

第36条 施設は、入居者の人権の擁護、虐待の発生又はその再発を防止するため次の措置を講ずるものとする。(1) 虐待防止のための対策を検討する委員会を定期的開催するとともに、その結果について従業者に周知徹底を図る。(2) 虐待防止のための指針の整備(3) 虐待を防止するための定期的な研修の実施(4) 前3号に掲げる措置を適切に実施するための担当者の設置 2 施設は、サービス提供中に、当該施設従業者又は養護者(入居者の家族等高齢者を現に養護する者)による虐待を受けたと思われる入居者を発見した場合は、速やかに市町村に通報するものとする

(身体拘束)

第37条 施設は、入居者に対する身体的拘束その他行動を制限する行為を行わない。ただし、当該入居者又は他の入居者等の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合には、身体拘束の内容、目的、理由、拘束の時間、時間帯、期間等を記載した説明書、経過観察記録、検討記録等記録の整備や適正な手続きにより身体等の拘束を行う。 2 施設は、身体的拘束等の適正化を図るため、次に掲げる措置を講じる。(1) 身体的拘束等の適正化のための対策を検討する委員会を3月に1回以上開催するとともに、その結果について、従業者に周知徹底を図るものとする(2) 身体的拘束等の適正化のための指針を整備する(3) 従業者に対し、身体的拘束等の適正化のための研修を定期的実施する

(業務継続計画の策定等)

第38条 施設は、感染症や非常災害の発生時において、入居者に対する指定介護福祉施設サービスの提供を継続的に実施するための、及び非常時の体制で早期の業務再開を図るための計画(以下「業務継続計画」という。)を策定し、当該業務継続計画に従い必要な措置を講じるものとする。 2 施設は、従業者に対し、業務継続計画について周知するとともに、必要な研修及び訓練を定期的に実施するものとする。 3 施設は、定期的に業務継続計画の見直しを行い、必要に応じて業務継続計画の変更を行うものとする。

附 則

この規程は平成12年 4月21日より施行する。

この規程は平成13年 3月 1日より施行する。

この規程は平成16年 4月 1日より施行する。

この規程は平成16年 4月21日より施行する。

この規程は平成17年10月 1日より施行する。

この規程は平成19年 4月 1日より施行する。

この規程は平成19年 6月 1日より施行する。

この規程は平成20年 7月 1日より施行する。

この規程は平成20年10月 1日より施行する。
この規程は平成21年 5月 1日より施行する。
この規程は平成23年12月 1日より施行する。
この規程は平成24年 4月 1日より施行する。
この規程は平成25年12月 1日より施行する。
この規程は平成26年 4月 1日より施行する。
この規程は平成26年 5月 1日より施行する。
この規程は平成27年 4月 1日より施行する。
この規程は平成27年 8月 1日より施行する。
この規程は令和 1年10月 1日より施行する。
この規程は令和 3年 4月 1日より施行する。
この規程は令和 4年10月 1日より施行する。
この規定は令和 6年 8月 1日より施行する。
この規定は令和 7年 4月 1日より施行する。